

ミャンマー第2の都市といわれるマンダレーは、王宮跡やパゴダなど観光地として有名であり、市中には西洋人の観光客の姿が目立つ。経済面では、ミャンマーの中央に位置しており、物流拠点としても繁栄している。さらに第2次大戦中には、援蒋ルートの重要地点でもあり、戦後も国民党の残党が逃げ込み、それを追って共産党も進出するなど、中国の影響をしばしば受けてきた。それはマンダレーが中国に近接しているためであり、ビジネス面でも華人の影響が強い。実際にマンダレーの工業団地には華人経営の工場が林立している。最近の情報では、そのマンダレーの工業団地でも人手不足となってきたという。またマンダレー西方のモンユワでは、中国企業が銅山開発を行っており、公害や補償問題を起している。さらにラカイン州のチャオピューから天然ガスや石油のパイプラインがマンダレーの近くを通り、中国の雲南省まで敷設され、運用が開始されようとしている。しかも仏教徒が多く住むマンダレーには、仏教徒過激派を率いるウィラトウ師が居住しており、昨年、仏教徒の大規模なイスラム教徒襲撃事件が起きた。今、マンダレーはミャンマーのホットスポットになりつつある。

私はこれらの状況を調査するため、2月初旬、マンダレーを訪れた。しかし時間の制約や現地通訳の拙さ、私の準備不足などで、十分にそれらを検証することができなかった。ひとまず今回は、問題提起および中間報告という形にしており、できるだけ早い機会に十分な準備をした上で、マンダレーへ再調査に赴き正確な情報を届けたいと思っている。

1. マンダレー工業団地の現況

マンダレーの南方10kmほどの場所に、マンダレー工業団地(SEZ)がある。SEZ 事務所の管理者の話では、この SEZ は1994年に創設、約800ヘクタールの敷地に、約1300社が入居中。業種は、農業機械の組み立てや補修、農産物加工、飲料水製造などが多く、繊維関係はほとんどない。規模は最大でも労働者数で400～500人程度。経営者は中国系(ミャンマー国籍取得済み)が70%、ミャンマー系が30%。外資の進出はない。労働者の月給は70,000チャットほどで、人出は不足していない。SEZ 全体で15万人ほどを雇用している。すでに工業団地に空き地はなく、新たに進出する場合は用地の持ち主から個別折衝で買い取ることになる。その相場は、1㎡=100



《 マンダレーSEZ 管理事務所前で 》

～300US\$。私がマンダレーSEZ 内を車で巡視したところでは、稼働している工場は7～8割ぐらい。小規模工場が多く、ところどころに空き地がある。メイン道路の舗装はよいが、脇道に入るとデコボコ。停電も頻発しているという。あちこちにゴミの山があり、ヤンゴン近辺のSEZと比べかなり汚い。ヤンゴンのSEZでも土地は、1㎡=100US\$ほどなので、この環境でそれと同額以上というには納得がいかない。中国の資金が流入し、すでに投機の対象になっているものと思われる。マンダレーの都市圏人口は250万人といわれており、このSEZで15万人ほどの雇用ならば、人手不足状態ではないだろう。労働者の月給はヤンゴン近辺より、2～3割安か。

2. ウィラトウ師の周辺状況

《 ウィラトウ師の居住寺前で 》 →

ウィラトウ師は、マンダレー市内のマッソーイェンと呼ばれる広大な寺院の中に居住している。過激派仏教徒のリーダーのウィラトウ師は、1月中旬、仏教徒数百人を率いて、ヤンゴンで国連特別報告者を罵倒し、物議を醸したばかりであり、私はこの寺院には、近寄ることができないだろうと思っていた。しかしながら寺院周辺は平穏そのもので、なんの障害もなく、車で寺院内に入り、ウィラトウ師の居住場所に行くことができた。その前では、多くの僧が三々五々、経典を開いて勉強していた。正面にはウィラトウ師の顔写真入りの声明文が貼り出されており、側面には昨年のマンダレーでのイスラム教徒との衝突時の仏教徒の惨状、タイでの仏教徒の被害状況(日時不詳)、一昨年のバングラデシュのラム市でのイスラム教徒の仏教徒襲撃の惨状が、パネルにして掲示されていた。

なお、事前に申し込んでおけば、ウィラトウ師との面談も可能だという。次回にはぜひ、ミャンマー語のできる日本の仏教僧といっしょに面談し、その真意を聞いてみたいと思っている。 《 各地の仏教徒の惨状を報じたパネル 》 →



3. マンダレー市内の現況

メディア情報によれば、マンダレー市内のレストランや小売店でも人手不足状況が現れているという。私は市内の小売店の店頭をくまなく見て回り、常套手段の求人広告ウォッチをやってみたが、それらしきものはほとんどなかった。レストランに何度も入って、ウェイターやウェイトレスの勤務態度に注目してみたが、いずれも丁寧な対応であり、そこでも人手不足を感じることはなかった。

ただし、市内のチャイナショップマーケットと呼ばれる新築の5階建てモールでは、事情がまったく違っていた。そのショップの店頭には、4社に1社の割合で、求人広告が貼り出されていた。このモール内のショップのほとんどが中国系の経営者であり、売っている物も中国製品であるというが、それが人手不足と関係があるのかどうかは判断できなかった。なお、一昨年、私がこのモールを訪れたときは、3階の一角に日本の「ダイソー」が店を構えていた。今回、その場所に行ってみたが、どうしてもみつからなかったので、管理事務所で聞いてみたところ、昨年、撤退したという。



《 小売店頭の求人広告 》